

滋賀県の 労働災害の現状

(令和7年4月)



滋賀労働局・労働基準監督署（大津・彦根・東近江）

令和6年のトピックス

- ① 死亡災害は前年と同数 - 2 -
- ② 「はさまれ・巻き込まれ」及び「交通事故」による
死亡災害が最も多い
- ③ 60代の死亡災害が半数
- ④ 死傷災害は前年に比べ減少 - 3 -
- ⑤ 第三次産業の死傷災害が最も多い
- ⑥ 全産業では転倒による死傷災害が最も多い - 4 -
- ⑦ 40代以上の死傷者数が約7割を占める - 6 -
- ⑧ 高年齢労働者を中心に転倒災害が増加 - 7 -
- ⑨ 外国人労働者の労働災害が増加

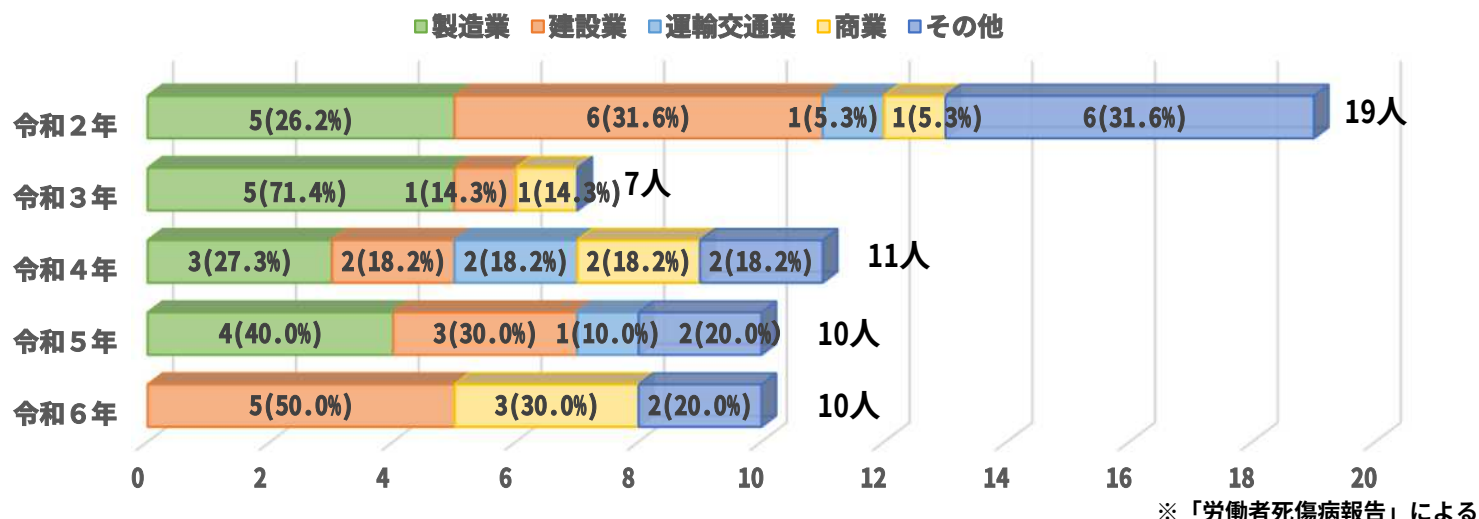
※本統計では、新型コロナウイルス感染症関係を除きます。

- 死亡災害の概要（令和6年） - 8 -
- 年別・業種別労働災害発生状況（過去10年間） - 9 -
- 死亡災害の推移（昭和46年以降） - 10 -
- 労働災害発生状況の推移（昭和46年以降） - 11 -

1 死亡災害は前年と同数

令和6年の労働災害による死亡者数は10人と、令和5年と同数となった。

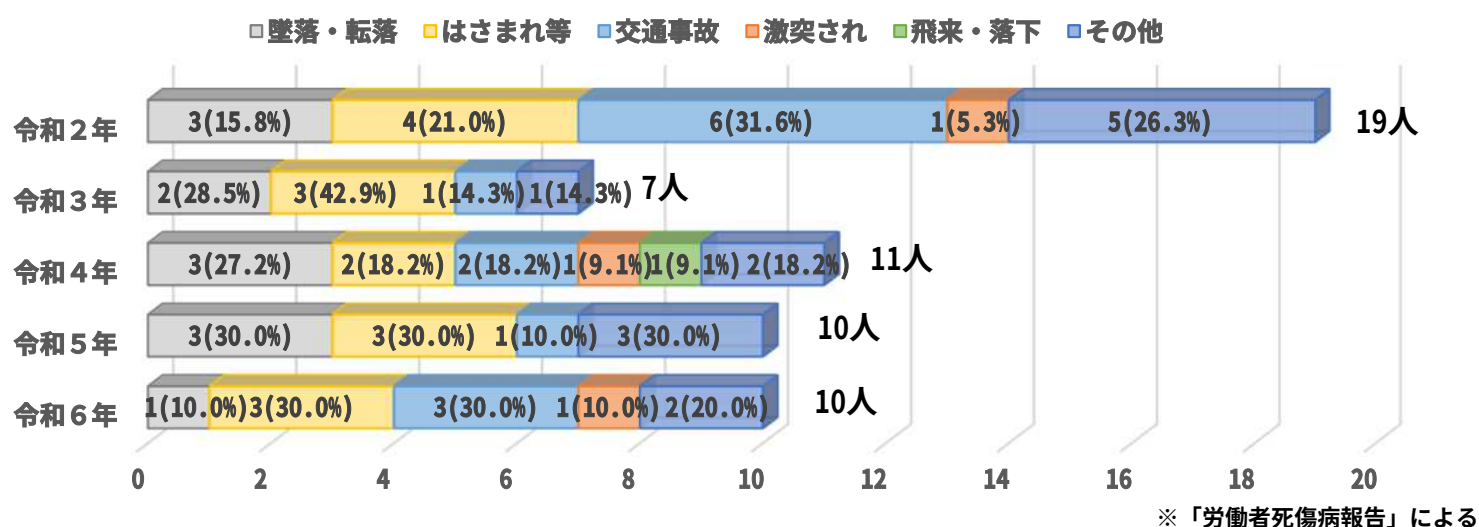
業種別死亡災害発生状況



2 「はさまれ・巻き込まれ」及び「交通事故」による死亡災害が最も多い

令和6年の死亡災害10人の事故の型では、「はさまれ・巻き込まれ」及び「交通事故」が3人、「墜落・転落」「転倒」「崩壊・倒壊」及び「激突され」が1人だった。

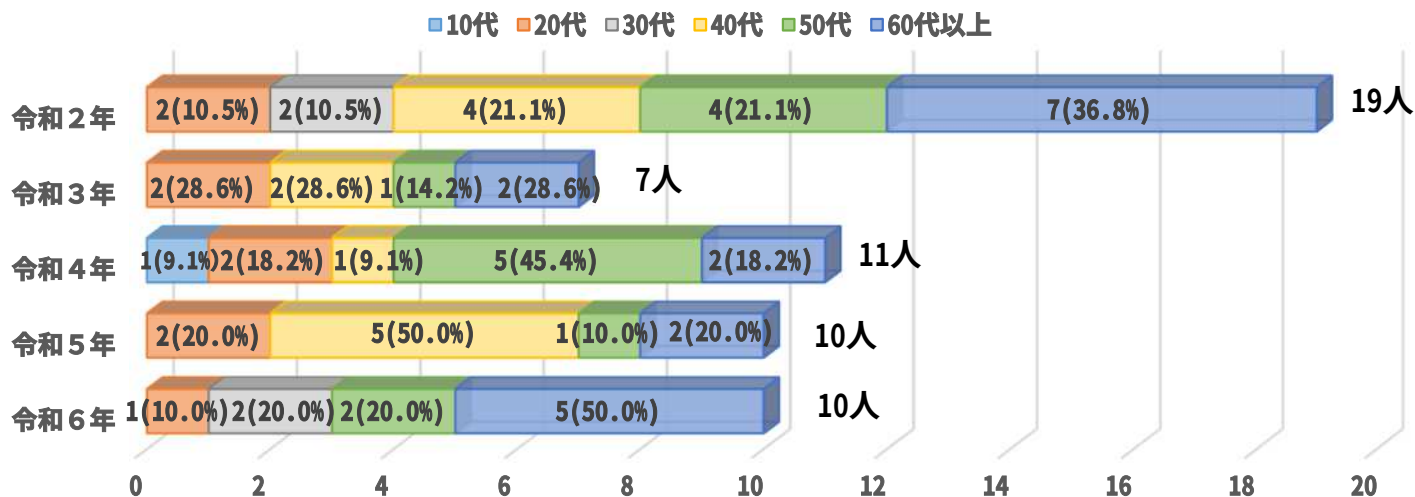
事故の型別死亡災害発生状況



3 60代の死亡災害が半数

令和6年の死亡災害の被災者を年齢別に見ると、60代が最も多く全体の半数の5人であった。

年齢別死亡災害発生状況

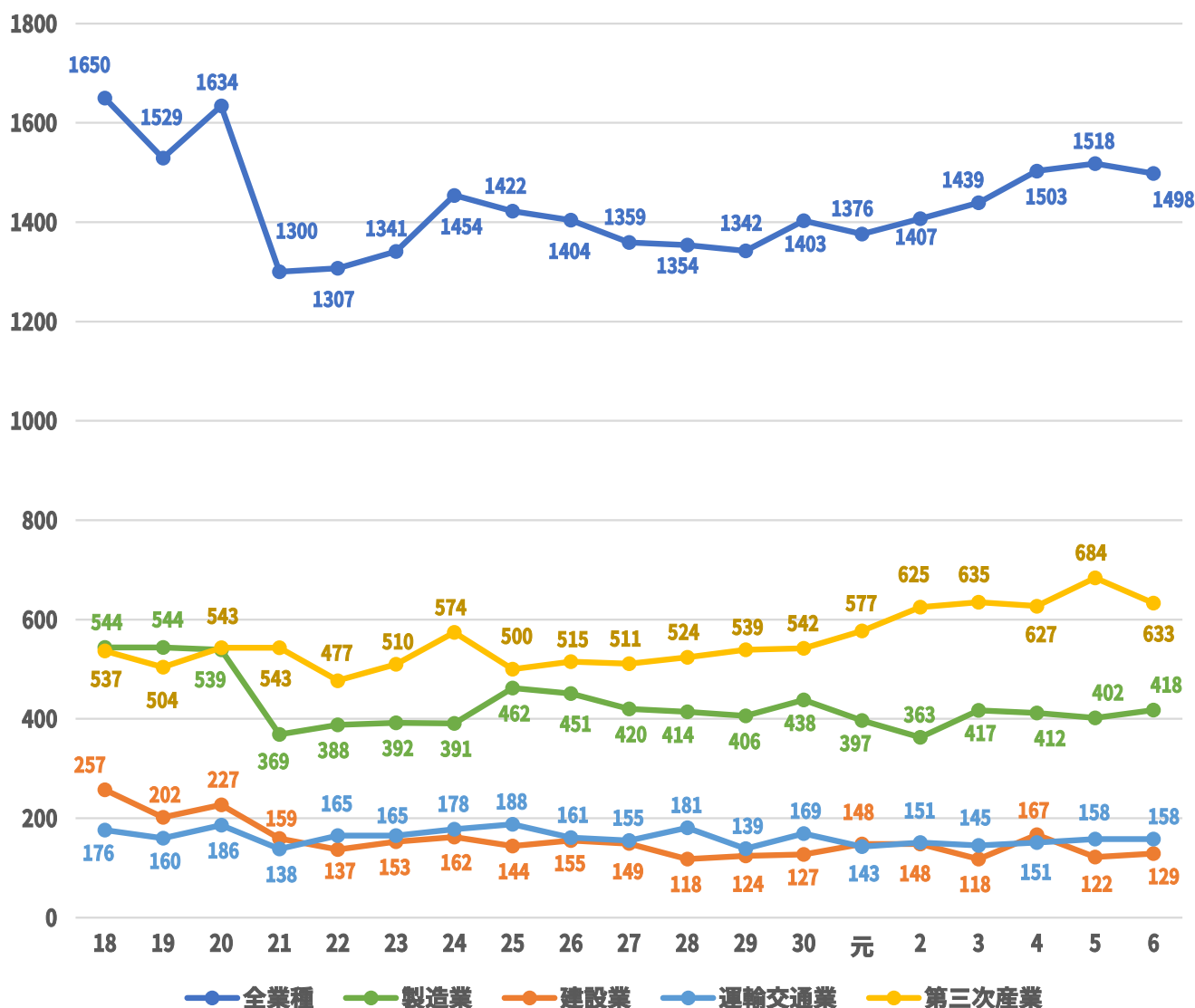


4 死傷災害は前年に比べ減少

滋賀県内の労働災害による休業4日以上死傷者数は、従来型の労働災害に限ると5年ぶりに減少となっているが、依然高止まりの状態にある。

業種ごとの内訳では、製造業が418人（前年比+4.0%）、建設業が129人（前年比+5.7%）、運輸交通業が158人（前年比±0.0%）、第三次産業633人（前年比-7.5%）となっている。

休業4日以上死傷者数の推移

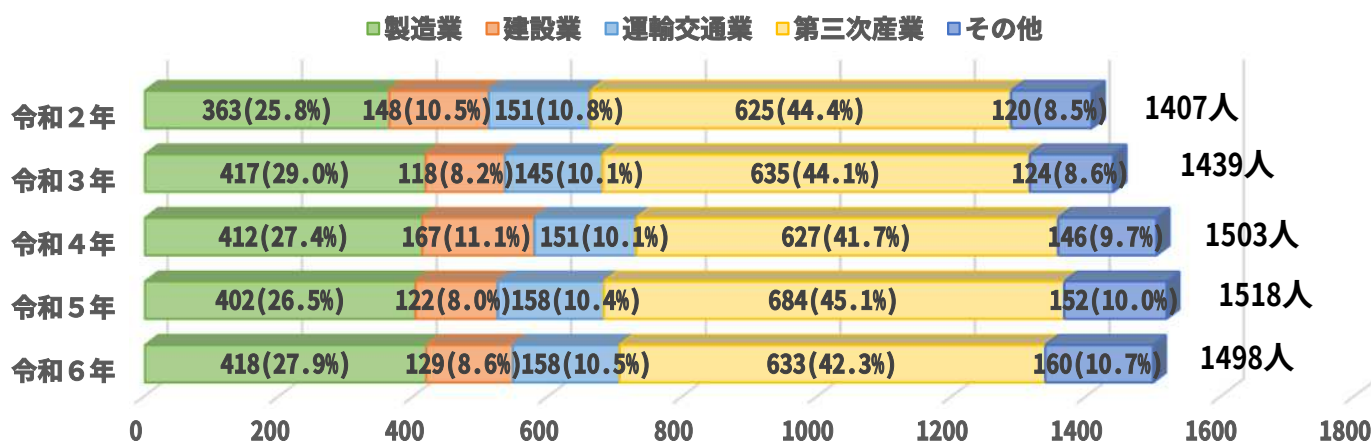


※「労働者死傷病報告」による

5 第三次産業の死傷災害が最も多い

令和6年の休業4日以上死傷者数は、第三次産業の占める割合が42.3%と最も高く、次いで製造業(27.9%)、運輸交通業(10.5%)、建設業(8.6%)の順になっている。

業種別死傷災害発生状況

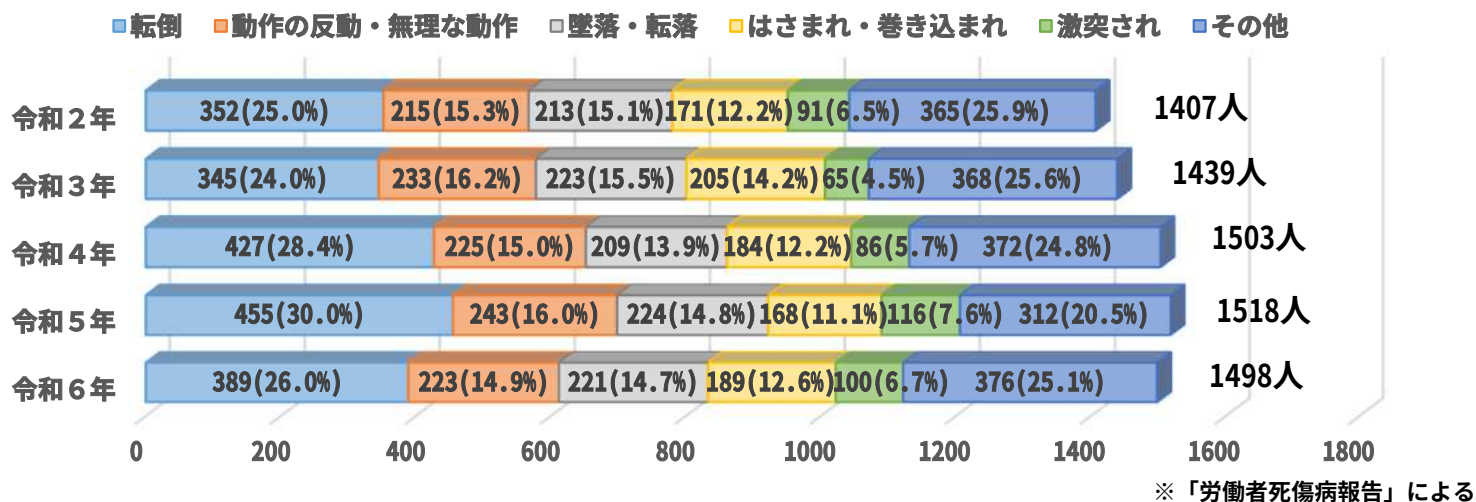


※「労働者死傷病報告」による

6 全産業では転倒による死傷災害が最も多い

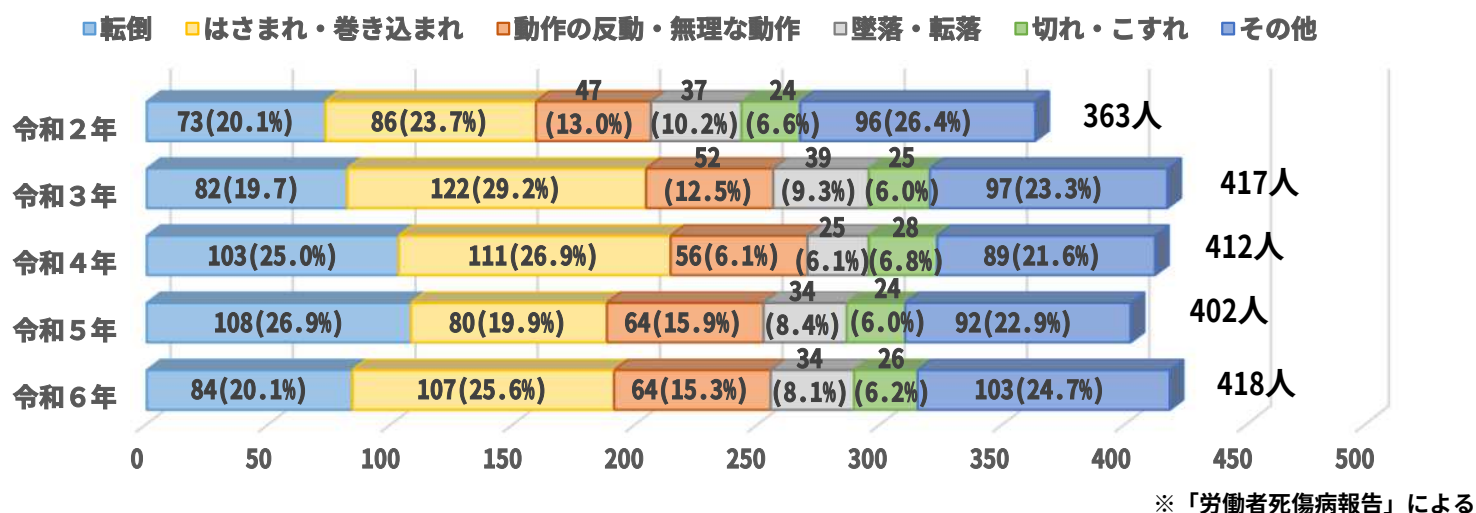
令和6年の死傷災害を事故の型別で見ると、全産業では「転倒」災害が最も多く、これ以外では「動作の反動・無理な動作」、「墜落・転落」、「はさまれ・巻き込まれ」、「激突され」の順となっている。

事故の型別死傷災害発生状況【全産業】



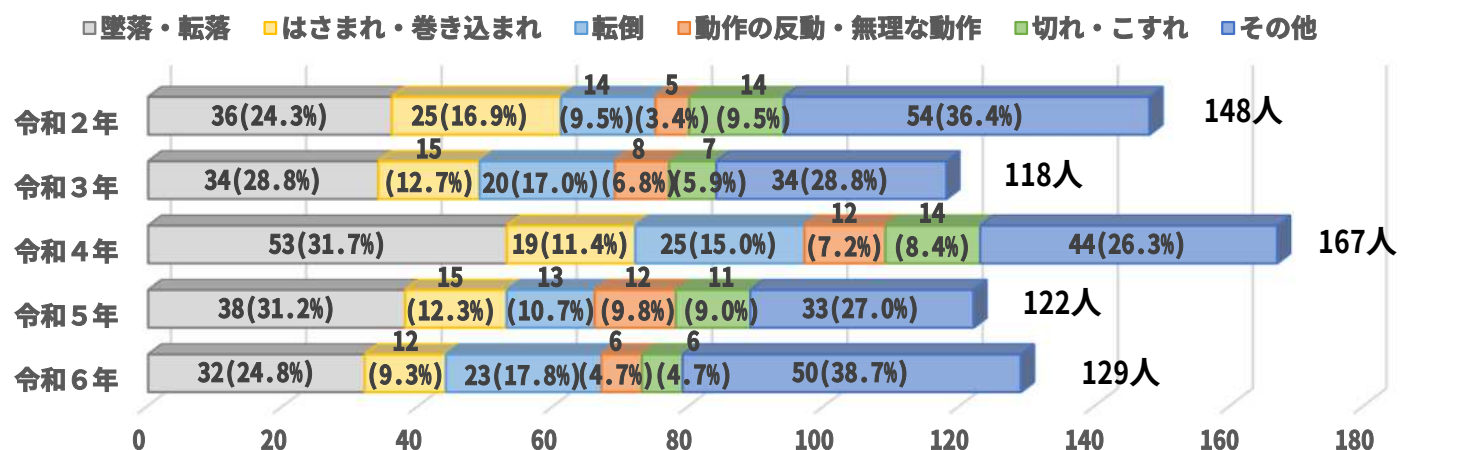
製造業では、「はさまれ・巻き込まれ」が「転倒」と入れ替わり最多となった。これ以外では、「動作の反動・無理な動作」、「墜落・転落」、「切れ・こすれ」の順となっている。

事故の型別死傷災害発生状況【製造業】



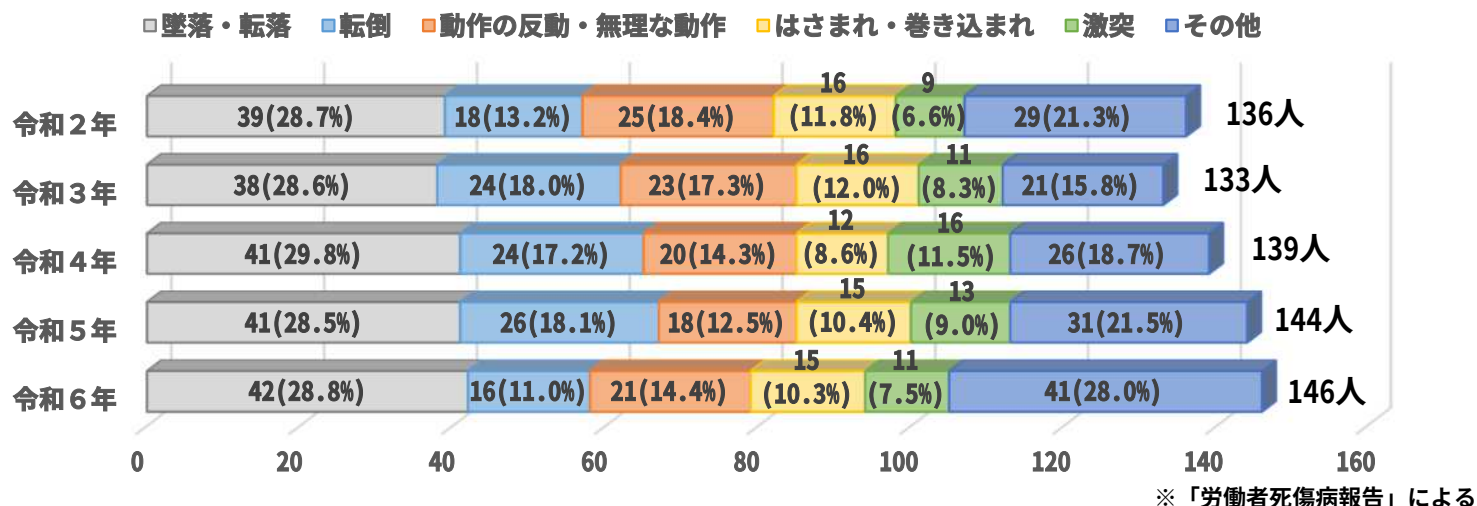
建設業では、「墜落・転落」が最も多く、これ以外では、「転倒」、「はさまれ・巻き込まれ」、「動作の反動・無理な動作」、「切れ・こすれ」の順となっている。

事故の型別死傷災害発生状況【建設業】



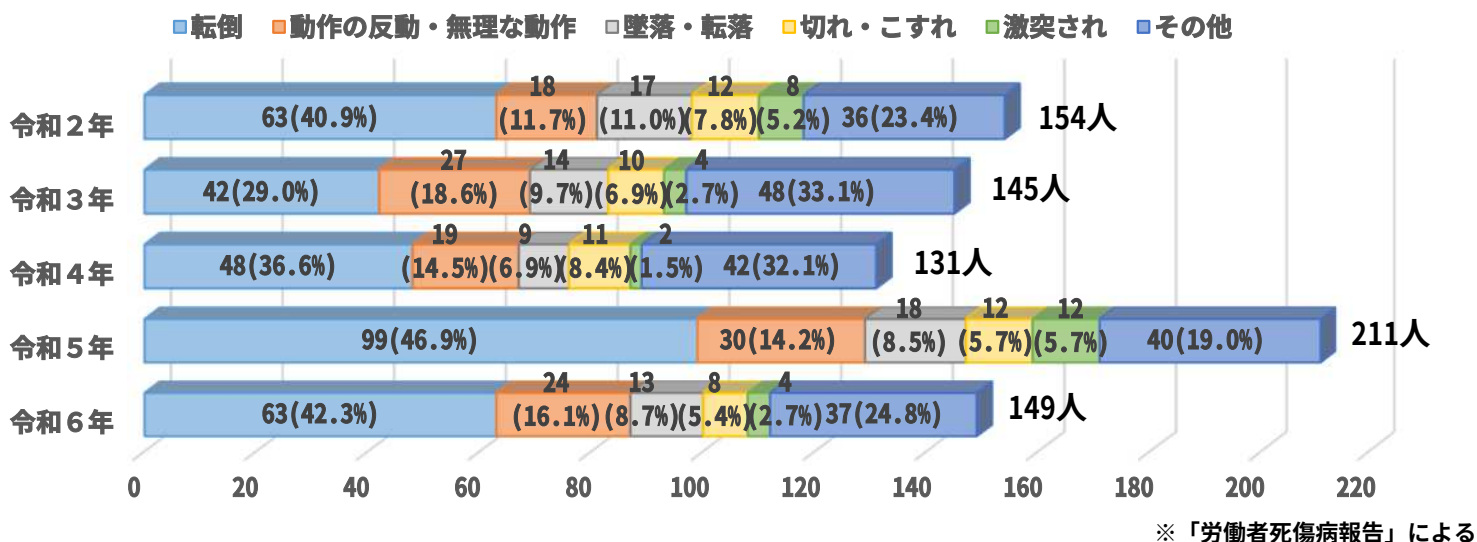
道路貨物運送業では、「墜落・転落」が最も多く、これ以外では「動作の反動・無理な動作」、「転倒」、「はさまれ・巻き込まれ」、「激突」の順となっている。

事故の型別死傷災害発生状況【道路貨物運送業】



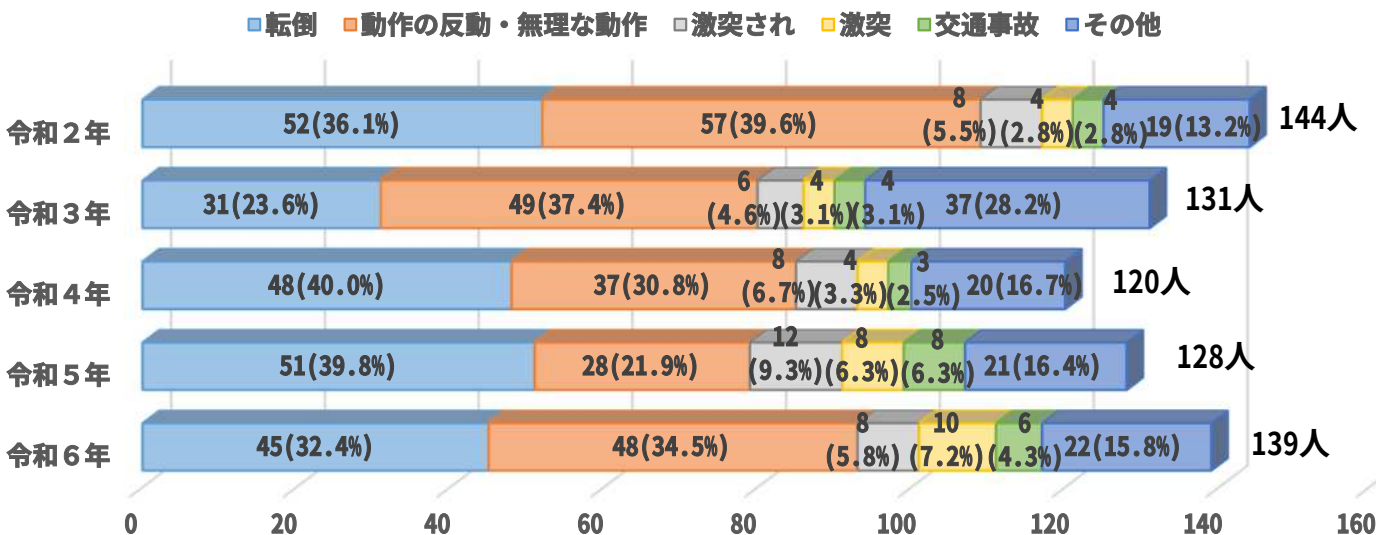
小売業では、「転倒」が最も多く、これ以外では「動作の反動・無理な動作」、「墜落・転落」、「切れ・こすれ」、「激突され」の順となっている。

事故の型別死傷災害発生状況【小売業】



社会福祉施設では、「動作の反動・無理な動作」が最も多く、これ以外では「転倒」、「激突」、「激突され」、「交通事故」の順となっている。

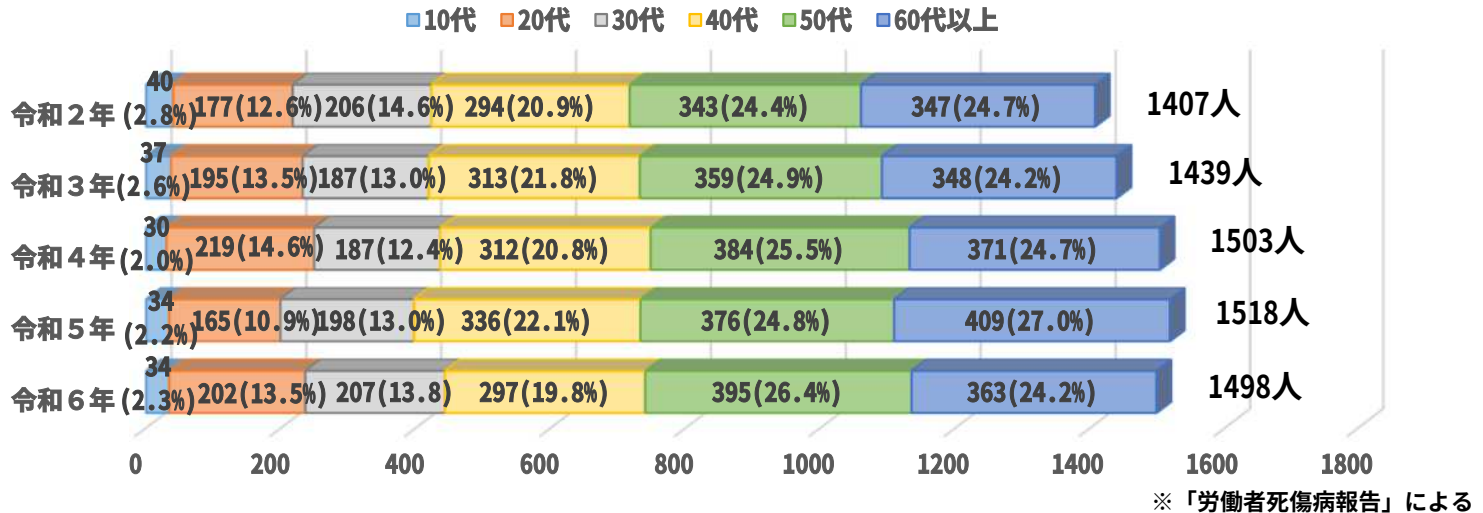
事故の型別死傷災害発生状況【社会福祉施設】



7 40代以上の死傷者数が約7割を占める

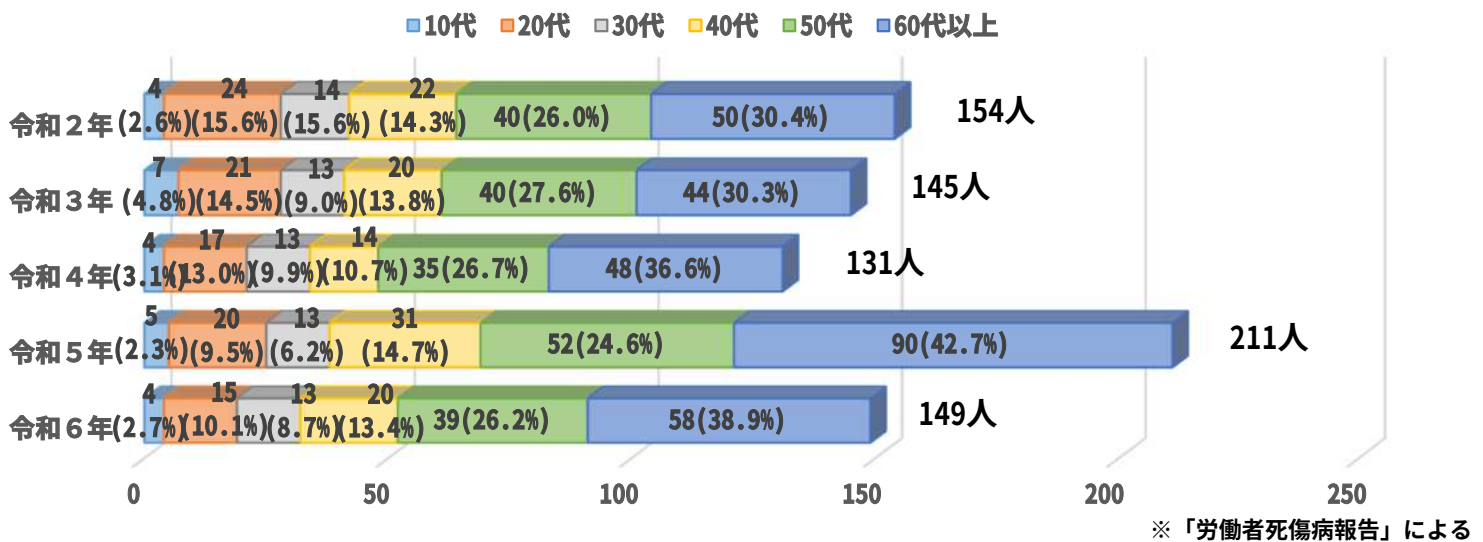
令和6年の全産業の死傷災害を年代別で見ると、年代が高いほど死傷者数が多く、40代以上の死傷者数が70.4%（1,055人）を占めている。

年代別死傷災害発生状況【全産業】



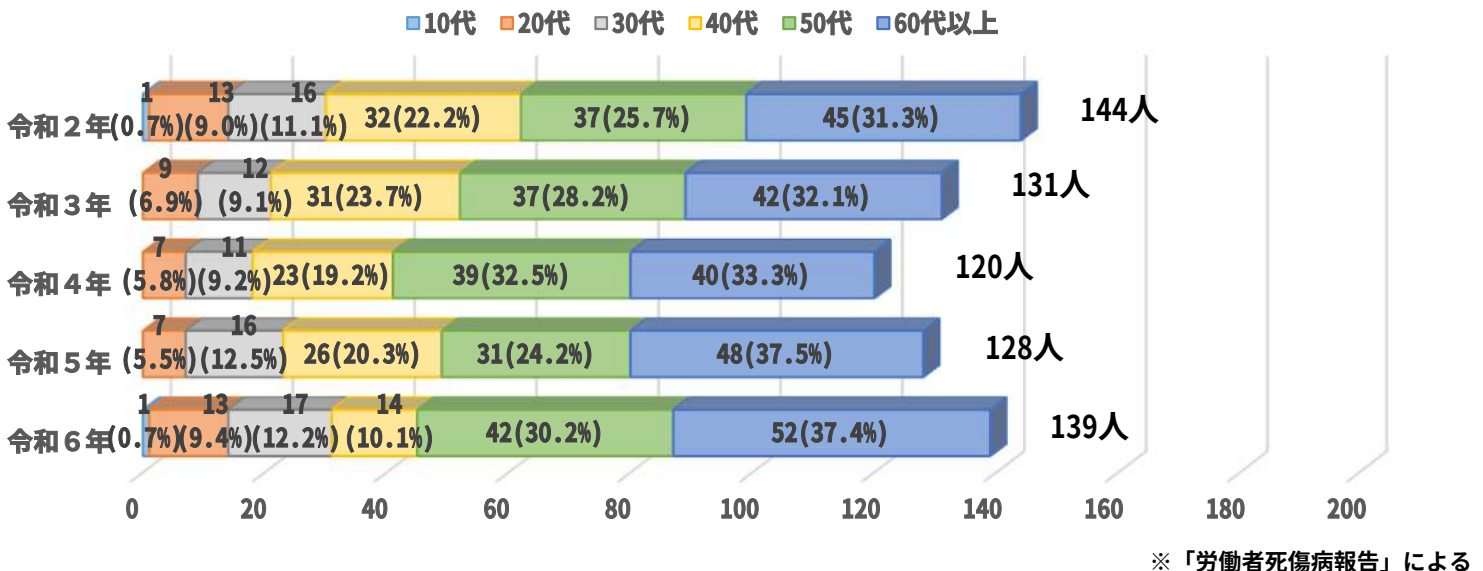
令和6年の小売業における死傷災害を年代別で見ると、年代が高いほど死傷者数が多く、特に50代から急激に死傷者数が増加していることがうかがえる。

年代別死傷災害発生状況【小売業】



令和6年の社会福祉施設における死傷災害を年代別で見ると、年代が高いほど死傷者数が多く、特に50代から急激に死傷者数が増加していることがうかがえる。

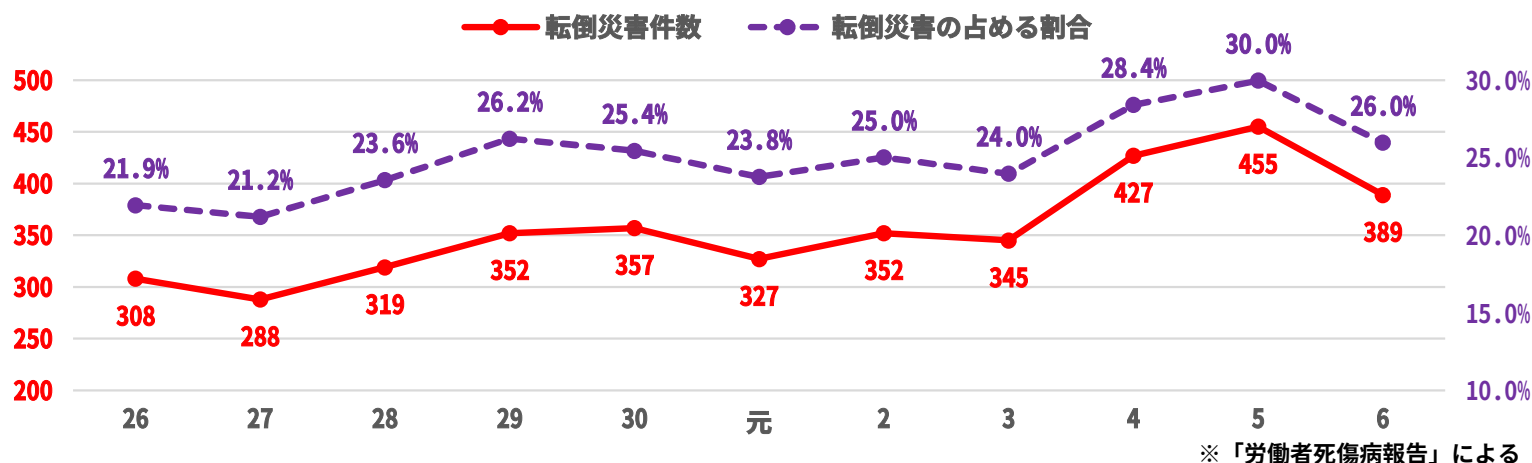
年代別死傷災害発生状況【社会福祉施設】



8 高年齢労働者を中心に転倒災害が増加

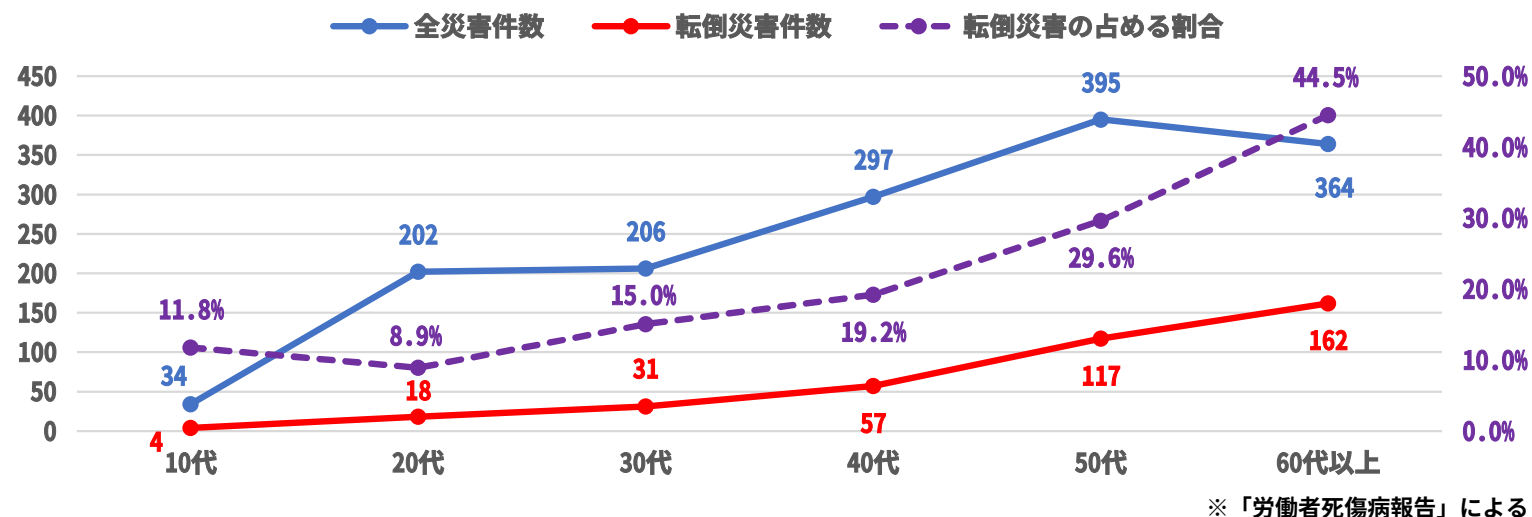
転倒災害は年々増加する傾向にあったが、令和6年は389件と減少となった。また全死傷災害に占める割合が上昇傾向から減少となり、令和6年は全死傷災害の26.0%を占めた。

転倒災害の件数と全体に占める割合



年代別では、年代が上がるほど件数及び全死傷災害に占める割合が高くなる傾向となり、60代以上では44.5%に当たる162件の転倒災害が発生している。

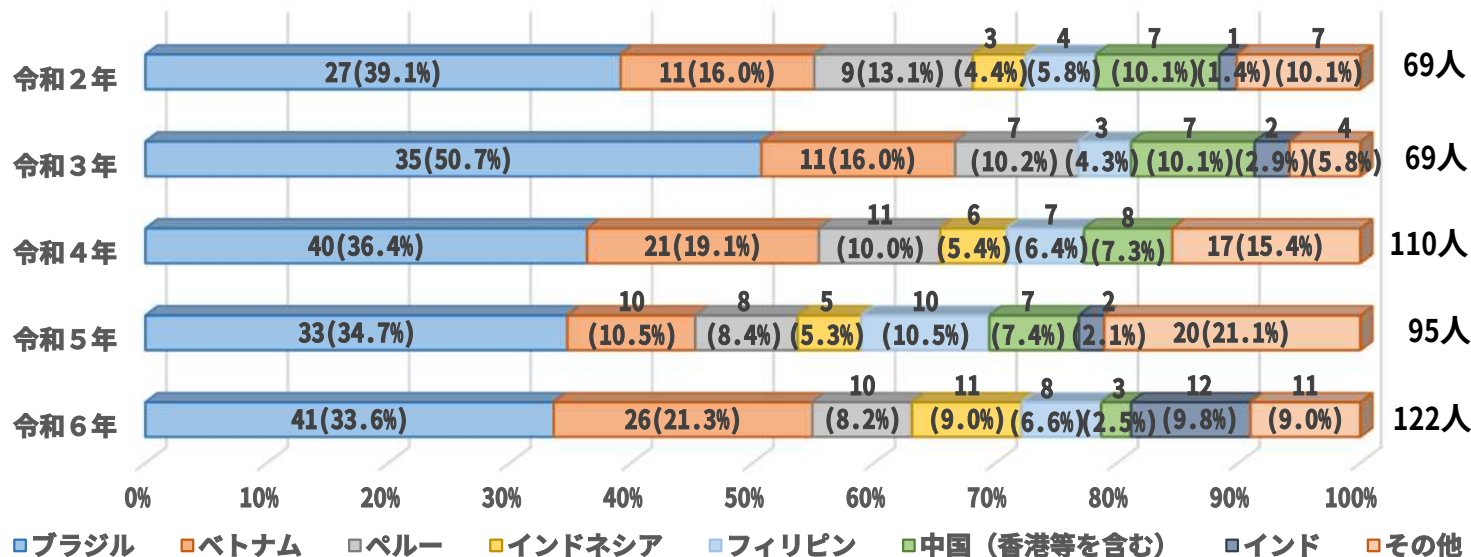
年代別災害件数と転倒災害の割合



9 外国人労働者の労働災害が増加

令和6年の外国人労働者による労働災害は増加傾向にあり、ブラジル（41人）、ベトナム（26人）、インド（12人）、インドネシア（11人）、ペルー（10人）の順となっている。

年別外国籍別労働災害発生状況



● 死亡災害の概要（令和6年）

番号	業 種 (規模)	発生月 時間帯	事故の型	被災者の職種 年代	発 生 概 要
1	鉄骨・鉄筋コンクリート造家屋建築工事業 (2名)	1月 13時頃	墜落・転落	鉄骨工 30代	新築工事の鉄骨建て方作業において、ラフタークレーンでつり上げた鉄骨柱を梁にボルト固定するために、鉄骨柱に取り付けられた胴縁上を歩いていた被災者が、5.8m下の地面に墜落したものの。
2	新聞販売業 (34名)	3月 3時頃	交通事故	新聞配達 30代	ミニバイクに乗車し新聞配達中、交差点で乗用車と出会い頭に衝突したものの。
3	道路建設工事業 (8名)	3月 11時頃	激突され	作業者 60代	進入路整備工事における立木の伐採作業中、枝集めを行っていた被災者が倒木付近に倒れているところを発見されたもの。
4	産業廃棄物処理業 (9名)	7月 12時頃	はさまれ・巻き込まれ	作業者 80代	被災者は、圧縮成型機の内部に溜まる屑をエアブローで吹き飛ばす作業を行っていた。操作盤で機械を運転していた同僚が電源を切り移動中に、被災者が機械の本体フレームと可動フレームとの間に挟まれているところを発見したもの。
5	道路建設工事業 (19名)	9月 13時頃	はさまれ・巻き込まれ	作業者 60代	道路舗装補修工事において、別の作業者が搭乗型ローラーを運転して土砂を転圧していたところ、走行範囲に立ち入った被災者が轢かれ死亡したもの。
6	産業廃棄物処理業 (19名)	9月 15時頃	はさまれ・巻き込まれ	作業者 20代	再生砕石プラントにおいてコンクリートガラの破碎作業中、被災者が破碎設備に設けられたベルトコンベヤーのロール部と地面との間に挟まれた状態で発見されたもの。
7	新聞販売業 (9名)	10月 4時頃	交通事故	新聞配達 70代	新聞配達のため軽トラックを運転中、対向車線から右折した別のトラックと衝突したもの。
8	道路建設工事業 (3名)	10月 9時頃	崩壊・倒壊	作業者 50代	地山によう壁を設置する作業中、よう壁を支えるサポートが外れたためこれを拾いに地山とよう壁との間に立ち入ったところ、倒れたよう壁と地山との間にはさまれたもの。
9	新聞販売業 (15名)	10月 6時頃	交通事故	新聞配達 60代	業務を行っていた新聞配達員が、道路上で倒れていたところを発見され、その後死亡が確認されたもの。
10	木造家屋建築工事業 (2名)	12月 14時頃	転倒	作業員 50代	ドラグショベルをトラックに積込むため、荷台にバケットを突き支えにしてクローラの前方を持ち上げた際に、ドラグショベルがバランスを崩して横転し、運転席から投げ出された被災者がヘッドガードに胸部を挟まれたもの。

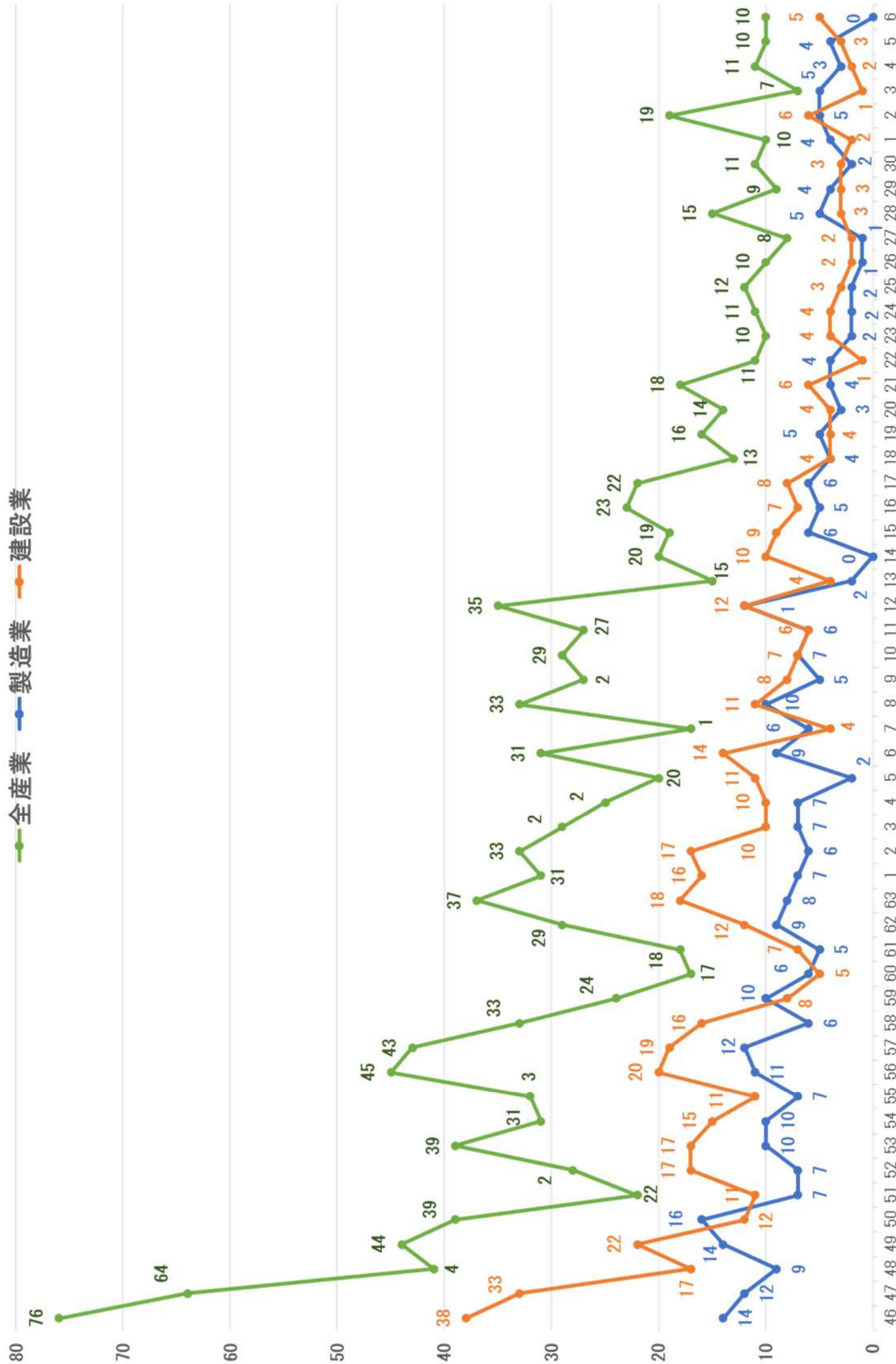
年別・業種別労働災害発生状況(過去10年)

年別 業種		27	28	29	30	元	2	3	4	5	5
製 造 業	食料品製造業	77	(1) 87	(1) 76	75	67	67	72	82	68	73
	繊維工業	15	7	17	22	17	(1) 10	16	12	(1) 19	11
	衣服・その他の繊維製品製造業	7	5	2	2	3	5	2	5	5	6
	木材・木製品製造業	13	9	7	(1) 15	(1) 19	(1) 13	19	13	10	12
	家具・装備品製造業	6	5	2	1	3	3	6	5	5	2
	パルプ・紙・紙加工品製造業	11	10	9	11	12	14	15	(1) 19	8	18
	印刷・製本業	(1) 14	10	9	17	3	10	(1) 6	6	6	3
	化学工業	41	57	(1) 68	55	(1) 66	56	(1) 51	(2) 49	(1) 63	67
	窯業土石製品製造業	36	(1) 27	(1) 35	26	37	(1) 26	(1) 22	22	25	31
	鉄鋼業	9	13	10	4	8	3	8	1	6	4
	非鉄金属製造業	5	10	6	9	7	3	4	7	(1) 4	8
	金属製品製造業	58	(1) 60	(1) 72	64	(1) 60	(1) 41	58	55	(1) 60	60
	一般機械器具製造業	38	38	31	(1) 45	(1) 29	(1) 35	(1) 44	46	34	36
	電気機械器具製造業	30	(1) 41	28	38	30	25	34	42	35	37
	輸送用機械器具製造業	29	(1) 21	20	23	18	23	26	28	26	27
	電気・ガス・水道業		1			2	1	2	1		1
	その他製造業	31	13	14	31	16	28	(1) 32	19	28	22
	〔 製造業計 〕	(1) 420	(5) 414	(4) 406	(2) 438	(4) 397	(5) 363	(5) 417	(3) 412	(4) 402	418
鉱 業		2	3	1	1	1	2	1	2	3	2
建 設 業	土木工事業	30	23	21	(1) 25	(1) 29	(1) 28	(1) 35	(1) 38	32	(3) 27
	建築工事業	(2) 87	(3) 62	(1) 65	58	66	(4) 88	55	(1) 82	(1) 57	(2) 75
	(内 木造家屋建築工事業)	(1) 25	29	18	20	20	(1) 20	14	27	15	(1) 13
	その他の建設業	32	33	(2) 38	(2) 44	(1) 53	(1) 32	28	47	(2) 33	27
	〔 建設業計 〕	(2) 149	(3) 118	(3) 124	(3) 127	(2) 148	(6) 148	(1) 118	(2) 167	(3) 122	(5) 129
運 輸 交 通 業	道路旅客運送業・その他	16	19	14	(1) 14	16	15	12	12	14	12
	道路貨物運送業	(2) 139	(1) 162	125	155	127	(1) 136	133	(2) 139	(1) 144	146
	〔 運輸交通業計 〕	(2) 155	(1) 181	139	(1) 169	143	(1) 151	145	(2) 151	(1) 158	158
貨物取扱業		1	8	4	9	6	2	10	10	13	14
農 業		8	10	9	7	(1) 8	(1) 15	8	10	9	11
林 業		10	4	11	15	(1) 5	3	8	5	5	3
水産・畜産業		(1) 103	(1) 92	(1) 109	95	91	98	97	119	122	130
その他の事業		(2) 511	(6) 524	(1) 539	(5) 542	(2) 577	(6) 625	(1) 635	(4) 627	(2) 684	(5) 633
(内 社会福祉施設)		75	90	75	87	100	144	131	120	128	139
(内 清掃・と畜業)		57	(2) 51	53	59	60	50	55	(1) 61	(2) 63	(2) 51
(内 商 業)		(1) 176	(3) 187	(1) 199	(2) 195	(2) 200	(1) 204	(1) 195	(2) 191	253	(3) 214
(内 接客娯楽業)		(1) 90	(1) 99	100	(1) 82	91	(1) 101	82	105	112	96
*** 合 計 ***		(8) 1,359	(16) 1,354	(9) 1,342	(11) 1,403	(10) 1,376	(19) 1,407	(7) 1,439	(11) 1,503	(10) 1,518	(10) 1,498

() 内は死亡者数を内数で表示

労働災害には、新型コロナウイルス感染症り患者を除いています。

● 死亡災害の推移



● 労働災害発生状況の推移

